

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>玄関入り口に「帰家隠坐」とその意味を掲げている。</p>	○	利用者、御家族はもちろん職員自身もそう感じられるようにしていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>その理念を全職員が理解し、雰囲気作りと支援が実践できるよう努力している。</p>	○	利用者、御家族はもちろん職員自身もそう感じられるようにしていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>玄関入り口に大きく掲げている。</p>	○	地域への理解は、今後様々な働きかけをしていく予定である。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>外出時、買い物時等こちらから挨拶、声かけをして気持ちよいつきあいが築けるよう努力している。</p>	○	業務に関係のない事、近隣の方々と共に助け合いながら生活していきたい(職員も1人の人としてつき合う)。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>清掃活動、地藏盆などに参加し、交流及び地域貢献できるよう努力している。</p>	○	移転後も早急に交流をもっていきたい。

グループホームラポールしらかば(2F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>不定期ではあるが、地域で開催されている認知症あんしんサポーター養成講座に講師として参加し、認知症の講習以外にも地域の方々の声を聞けるよう努力している</p>	○	<p>法人本部でも取り組んでいるシルバー110番をこちらの京都市内でも展開していきたい</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>指摘でなく、よりよく運営と活動していくためのアドバイスとして受け入れ、日々の業務につなげている。</p>	○	<p>結果については事業所全体で共有し、実践できる体制を整えていきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>隔月で会議を実施し、事業報告や地域の声を聞き、支援活動に活かしている。</p>	○	<p>後々には、御家族も参加していただければと思っている。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>			
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>一部、研修会などに参加し、理解を深めているが全体への浸透へは至っていない。</p>	○	<p>学ぶには難しい分野であるが、研修会等に参加した者がしっかり理解を深め、法人内でも勉強会を実施していきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修会の参加機会はないが、日常的に自分たちの行動・支援方法に問題はないか確認し合っている。</p>	○	<p>研修参加に務めていきたい。</p>

グループホームラポールしらかば(2F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一方的な説明ではなく、随時、御家族様からの質問、疑問に対応しながら進めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人からの要望は、認知症の為表現されにくいこともあるが、日々の関わりから細かいところまで気を配り、日々改善に向けて取り組んでいる。	○	「ご意見箱」の設置と面会時に気軽に話をうかがえる様、その雰囲気作りを今後も充実していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書送付時に御家族様宛に近況を記した手紙を送らせていただいている。	○	季刊誌の充実と日常の写真等も同時に送付していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様が来園される際、詳しくお聞きしている。	○	もっと気軽に、本音を話し合える事業所の雰囲気を築いていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	正職、パート職員の壁はなく、互いに何でも言い合える関係と管理者も随時その意見を聞き、すぐに対応し反映できる体制ができている。	○	各個人(職員)がそれぞれもっと輝けるステージを今後用意していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日々柔軟な対応をしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の混乱をまねかないよう、必要最小限にとどめる努力と利用者、御家族との関係を考えながら実施している。		

グループホームラポールしらかば(2F)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の希望、現場での必要性を重視し、常にタイムリーな研修参加機会が設けられている。</p>	<p>○</p> <p>定期的な内部研修を実施していくつもりである。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>指導者会議、ケア学会等積極的に参加して、横のつながりを親密に持ち、互いの事業所間の意見交換を常に実施している。</p>	<p>○</p> <p>交流を深めた後、互いの職員間でも勉強会を開催していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>不定期に親睦を深めるための食事会を設けている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
<p>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>本人との面会を必ず行い、不安や要望を聞いている。</p>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>センター方式シートを一部活用し、アセスメントを展開していくよう努力している。</p>	<p>○</p> <p>今後もっと本人視点の生活支援ができるようにしていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人同様、御家族の事情もよくお聞きし、理解した上で信頼関係を築いていけるようにしている。</p>	

グループホームラポールしらかば(2F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び御家族の意向をよくお聞きした上で、当事業所に限らない柔軟な対応ができるよう心がけている。	○	地域、他事業所とももっと連携を密にして、直ちにニーズ対応ができるよう整備したい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の生活ペースを把握し、なるべくそれに近づけるよう御家族とも連絡を密にして支援をしている。	○	センター方式のツールをその方用に改良し、使用していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の能力を考えながら、楽しみながら暮らすことを目標に家事を助け合い、存在感を感じてもらっている。	○	パーソンセンタードな双方の立場関係を職員間で勉強し、理解を深めていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族が訪ねて来られた時などに、日頃の様子や変化など細かく報告し、よりよい方向性を一緒に考えるようにしている。	○	行事等も準備段階から取り組み、親密に関わっていききたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常に御家族が思っておられることを話し、疎外感を感じないようにしている。	○	入居させた罪悪感を持ったままの御家族等に対し、介護サービスを提供するチームとして迎え入れ、共に喜び合える機会が持てるような個別ケア日(マンツーマンデイ)を多く取り入れて行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の訪問や、知人との外出など積極的に関係を維持できるようにしている。	○	個人対応(帰省など)を強化していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う人同士の席を近くにしたり、トラブルが起こりそうな人の中には職員がクッションとなって入り、関わりを持つよう努めている。		

グループホームラポールしらかば(2F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された方などにも面会に行くなど、近況の確認をしていた。	○	退院後のフォローについても、積極的にアプローチをしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉を目、耳で聴き、表情、しぐさなどに注意し、意向を汲み取るように努めている。	○	パーソンドケアの理論、理解を徹底していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報をできる限り集め、職員一人ひとりが把握し、より良い暮らしが送れるようにしている。	○	センター方式のツールを工夫し、その方に合った独自のツールを作成し、支援していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりを注意深く見ることによって、その方の有する力を把握でき、活かせることができている。	○	センター方式のツールを工夫し、その方に合った独自のツールを作成し、支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	報告、連絡、相談を密にし、必要に応じてケース会議を行い、いろいろな意見を出し合い、良い方向を考えている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース会議で話し合った結果を御家族にも伝える。		

グループホームラポールしらかば(2F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、見直しと職員間の情報共有をしている。	○	もっと細かい部分も記録に残し、その記入の仕方(書式)も工夫していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御家族が付き添えない場合には、病院等、職員が対応し、突然の外出、外食等にも柔軟に支援している。	○	御家族とも一緒に行動(外出・外泊)できる時間を設けたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地藏盆、運動会などに参加し、交流を深めながら支援している。	○	地域の方々に理解を深めていただき、様々なボランティア活動に参加していただきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	隔月の運営推進会議に参加していただいている。	○	ニーズがあれば認知症の勉強会なども開催していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回往診及び訪看に来ていただき、24Hオンコールの対応をしていただいている。		

グループホームラポールしらかば(2F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医が少ないが、それぞれが信頼できるDrを探しているところである。	○	勉強会、セミナー等で専門医と関わることもあるので、もっと親密な関係を築き、支援していただけるようにしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に3回看護師が健康チェックをし、隔週にホームDrの看護師が訪問看護に訪れる。	○	看護師を交えてのケース会議の回数を増やし、医療面からの支援の指導をもっと学ぶ。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院に際しては、Dr,Nsと常に連絡を取り、治療の過程や状況などの情報をもらい、退院に向けて混乱なく日常に戻るようになっている。	○	退院後も適切な支援ができるようにDrに相談する。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けては、家族、かかりつけ医、職員で面談し、方向性を確認し、重度化した場合もその都度話し合いする機会を作っている。	○	御家族に混乱がないように現状をしっかりと説明し、納得してもらっている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	御家族に現在、終末期に向けての面談を実施中である。	○	本人、御家族の希望をお聞きし、双方協力し合いながら最終ステージに向けて取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	可能な限り情報を得るよう努力している。	○	今後もセンター方式ツールを活用し、互いのズレを修正していきたい。

グループホームラポールしらかば(2F)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員、日々徹底して注意している。	○ 事例検討会等の発表など今後も細部まで説明し、承諾を得てから実施していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	いつもの暮らしぶりから思いや希望を汲み取り、自分で決められることは答えを急がずに見守る。決められない場合も説明し、納得して心地よく過ごせるようにしている。	○ 大勢の中が多いので、個別で関わる時間を増やし、話しやすい雰囲気を作していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こちらの都合でその日の過ごし方を決めず、提案はするが押し付けない。	○ 良い意味でその日の流れにまかせて、ゆったりした時間を過ごしていただきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人希望を優先し実施している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のチラシを見ていただいたり、メニューをお聞きするなどしている。	○ もっと入居者が参加できる献立、調理法など工夫したい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	制限はほとんどなく、自由である。	○ 喫煙なども本人に危険が及ばないよう、何気なく支援していきたい。

グループホームラポールしらかば(2F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	言葉・表情を細かく観察し、何気なくサポートできるよう努力している。	○	失敗後の言葉かけ、心のケアをもっと充実させていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応、入浴日は決めているが、いつでも入浴はできる体制でいる。	○	単なる保清のためではなく、楽しめる入浴を実施していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ソファなど一人になれる場所を作り、自由にくつろげる空間をつくっている。	○	こたつ(イス用でも)なども居室に設置できるようにしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人対応等実施したりして施設にこもらないよう努力している。	○	御家族と共に旅行等にいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は難しいが買い物等はこちらが支援させていただいて支払等していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々、買い物、散歩、地域行事などに参加し、外出できるよう支援している。	○	もっと自由に要望が切り出せる雰囲気を出していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望をお聞きして、遠出の外出もしている。	○	個別旅行(家族共)を実施したい。

グループホームラポールしらかば(2F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話等できる環境を作り、その都度できないところを支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間制限等は何もなく、いつ来園されても良い環境を作っている。	○	喫茶ルームみたいな場所を作っていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたらぬよう日々注意し、本人主導のケアを実施している。	○	委員会を設置し、もっと理解を深めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常、鍵はかけず、精神的にも自由な生活を提供できるよう努力している。	○	委員会を設置し、もっと理解を深めていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	管理にならないよう、何気ない声かけと所在確認をしながら、安全確保に努めている。	○	2Fはエレベーター、階段があるため、今後も特に注意しながら取り組んでいきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	倉庫保管(危険物)。日常生活用品は、普通に置いている。	○	日々、注意を払いながら、支援していく必要がある。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	随時、会議等で互いに確認しあい、ヒヤリハット記入などしている。	○	原因分析をしていく場を作りたい。

グループホームラポールしらかば(2F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急の講習を受講し、理解を深めている。	○	全職員が受講できるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施。	○	定期的な避難訓練の実施と地域との連携を図っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	往診医と協力し、現在面談実施中である。	○	とにかく利用者の安全を守りつつ、息苦しさを感じさせない生活空間を作り上げていきたい。
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	上司報告及び往診医と連絡を取り、速急に対応できる体制をとっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書など、随時個人ファイルに保管し、変更時は連絡ノート記入及び口頭確認にて連絡もれがないようにしている。	○	確認を徹底し、誤薬などないように注意していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事内容、水分等工夫し、なるべく薬に頼らない努力をしている。	○	心理面(ストレス)からも学習し、理解を深めていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎日、毎食、全員実施している。		

グループホームラポールしらかば(2F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一律同じではなく、個人に合わせた柔軟な対応をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	Nsと連携し、マニュアルに沿った対応を心がけている。	○	感染予防の研修会等、実施していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消毒を徹底し、食材においてもあまり買い置きはせず、使用するものだけ購入するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	地域に馴染みやすい美観と常にオープンな雰囲気を作りたい。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設くさくならないよう普通の家、生活する空間としてとらえていただけるよう、家庭用品を設置している。	○	介護用品などできる限り使用せず、日用品を工夫してホームにマッチした支援ができるよう心がけていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、個々にくつろげるスペースを作り、玄関先等にもベンチなど置いてお茶を飲んだりできるようにしている。		

グループホームラポールしらかば(2F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は可能な限り持ってきていただき、使い慣れたもので暮らせるよう支援している。	○	その方自慢の賞状等を飾れる場所を作っていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調はオゾン発生装置で徹底して脱臭できるよう換気も常に気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あまり過剰にならない程度に手すり等設置し、自分の能力に応じた生活が送れるよう支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	全体の中の1人ではなく、その方は「1人」という視点で常に関わるよう努めている。	○	9軒の家庭という意識を全職員でもっと理解し、その考えを深めていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている		○	これから家庭菜園や庭造りなど楽しく活用できる工夫をしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームラポールしらかば(2F)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

パーソンセンタードな考えを元に、入居者、支援者、家族、それを取り巻く周りの人々が互いに「人」として認め合い、互いの存在価値を感じられる環境作りに力を入れております。

法人理念「帰家穩坐」の意味するところを皆が肌で感じ、それぞれの「家庭」を大事にするケアを日々各スタッフが心がけています。